

「熊本地震復興プロジェクト」

今日で、昨年4月14日、16日に起きた熊本地震からちょうど1年になります。そこで、僕たち生徒会が中心となって、熊本の復興に向けて何ができるのかを考え、このプロジェクトに取り組みました。

まず、熊本県で暮らす一人として、熊本地震や被災された方々を忘れないことが、復興の第一歩だと考えました。この鹿北では地震の影響があまりなく、当たり前のように生活することができました。しかし、被災地では温かい給食を食べることすら、この1年間できなかったと聞いています。まだまだ、復興は始まったばかりで、熊本城が元の姿にもどるまでには、少なくとも20年以上はかかるそうです。

僕の祖父母も益城に住んでいて、当然地震の被害を受けました。道路はがたがた、瓦やガラスが当たり前のように落ちていて、ひどいところでは、家の面影もなく、ぺちゃんこになっていました。最近も行きましたが、1年たってもあまり変わりません。益城がそんな状況だからこそ、地震で傷ついた方々の心を少しでも癒やすことができればと思います。

そこで僕たち生徒会は、震災復興の歌である「しあわせ運べるように」の歌をまず覚え、身近な人たちに思いを込めて伝えていきたいと考えました。さらに、手話で歌うことで、より多くの方々に思いを伝えていくことができると考えています。まずは、地域の方々に思いを伝えることで、共に生きる鹿北づくりを地域の方々と一緒に考え、一緒に活動していく機会にしたいと思っています。

これからもずっと歌い続けていくことで、熊本に元気と勇気を与えていきたいと思えます。

平成29年4月14日

山鹿市立鹿北中学校

生徒会長 浦田 透真

